



JCAB APPROVED

HEAD OFFICE ; SUBARU BLDG.  
SHINJUKU, TOKYO, JAPAN

NO. 200-018      DATE 62. 1. 2 0      (SUPERSEDES NO.      )  
REV.      DATE      (SUPERSEDES NO.      )  
REASON

1. 標 題： 主翼前後補助桁翼胴結合金具ボルト孔摩耗拡大時の修理要領
2. 適用機体： FA-200 S/N 12以降の機体
3. 適用度： 要望事項
4. 目 的： 主翼前後補助桁翼胴結合金具のボルト孔が摩耗拡大した場合の標準修理方法について定める。
5. 指 示： 主翼前後補助桁翼胴結合金具のボルト孔の1サイズアップ( $\frac{3}{8}$  IN $\phi$  から  $\frac{7}{16}$  IN $\phi$ )を実施し取付ボルトを交換する。  
1サイズアップしてもなお摩耗部分が残る場合には富士重工側に連絡のこと。
6. 実施時期： 主翼前後補助桁翼胴結合金具のボルト孔に摩耗拡大が認められたとき。
7. 承 認： 航空局承認 (No-東-61-021)      61年12月26日
8. 所要部品： この作業には下記の部品が必要である。

No.	部 品 番 号	名 称	個 数	備 考
1	NAS1307-15D	ボ ル ト	1	1ヶ所修理に必要な個数
2	AN310-7	ナ ッ ト	1	"
3	AN960D716L	ワ ッ シ ャ ー	1	"
4	AN960D716	ワ ッ シ ャ ー	1	"
5	MS24665-285	ピ ン	1	"

9. 特殊工具： 穿孔治具      200-018T
10. 重量重心： 無視出来る。
11. 準拠資料： な し

AIRCRAFT DIVISION

1-11 YOUNAN 1 CHOME, UTSUNOMIYA TOCHIGI JAPAN 〒320  
TEL 0286 (59) 4833 TELEX 3522 176

TECHNICAL BULLETIN 200-018

PAGE 1 OF 3

## 12. 作業手順：

- (1) サービスマニュアル項目 2 - 2 によりジャッキアップするか又はドーリーにセットする。
- (2) 翼付根カバーを取外す。
- (3) 摩耗が発生している主翼補助桁翼胴結合ボルトを取外す。  
(注1)： 主翼前後補助桁翼胴結合金具共ボルト孔が摩耗している場合、穿孔する反対側の桁のボルトは取付けておくこと。  
(同時にボルトは取外さないこと。)  
(注2)： 孔が片寄っている場合は翼受台等で修正する。
- (4) 穿孔治具 (FIG. 1) に 27/64 IN $\phi$ ドリル穿孔用交換ブッシュを取付け、段付ピンを使用して翼胴結合金具 (胴体側) にセットする。
- (5) 穿孔治具のセットが確実か点検する。  
(注) 以下の作業中に主翼及び胴体の相対関係が狂わない様に注意すること。
- (6) 穿孔治具の穿孔ブッシュの反対側に案内用ピンを挿入して、段付ピンを抜き取り 27/64 IN $\phi$ ドリル (コーナードリル使用) にて穿孔する。
- (7) 27/64 IN $\phi$ ドリル用交換ブッシュを取外して  $\begin{matrix} \cdot 4380 \text{ IN} \phi \\ \cdot 4370 \end{matrix}$  リーマー用交換ブッシュと入れ替える。
- (8)  $\begin{matrix} \cdot 4380 \text{ IN} \phi \\ \cdot 4370 \end{matrix}$  リーマーを用いてボルト孔をリーマー仕上げする。
- (9) 穿孔治具を機体 (補助桁結合金具) より取外す。
- (10) 1 サイズアップしたボルト孔の摩耗部分が完全に除去されたことを確認 (「ダルマ」になっていないこと) する。
- (11) ボルト孔にジンクロを塗布し、1 サイズアップのボルトを取付ける。  
(締付トルクはガタのない程度とする)
- (12) 反対側が摩耗している場合 (3) ~ (10) の作業を繰り返す。
- (13) 翼付根カバーを取付ける。
- (14) 機体をジャッキ又はドーリーより取卸す。

## 13. その他

本作業終了後は有資格整備士の確認を受け、航空日誌に記録のこと。

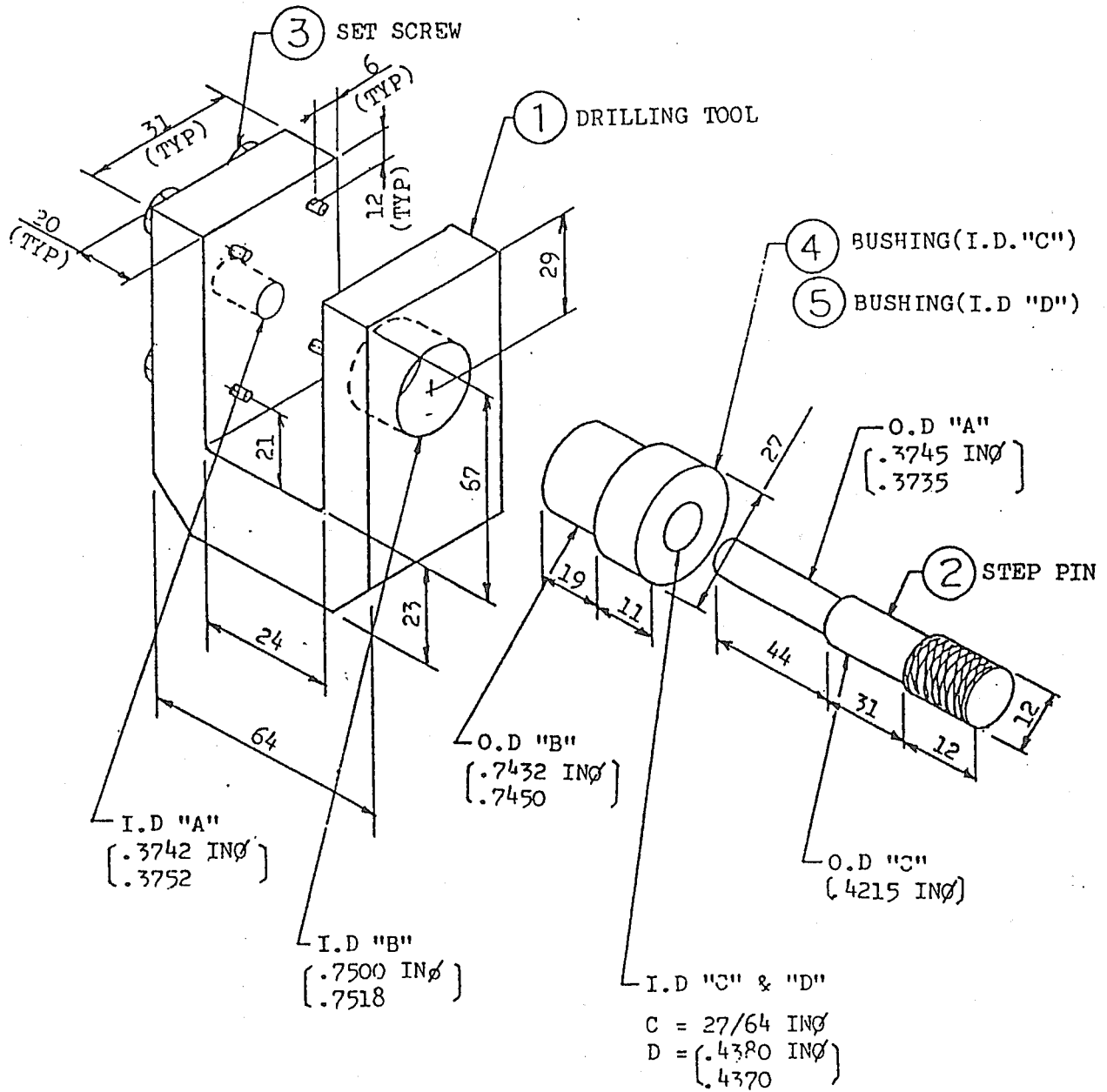


FIGURE 1 : 穿孔用治具 (200-018T)